

スマートフォンの安全性に関する調査を実施しました

東京都では、都内在住の10代以上の男女1,005人を対象としたアンケート調査等により、スマートフォンの安全性に関する調査を実施しました。その結果をお知らせします。

1 調査結果

- **使用中や充電中に発熱！ 中にはやけどをした人も！**
充電中には発煙発火も！ (報告書 P.5~10)

こんな使い方で発熱しています

充電しながら寝たら端末が腕の下にあり、発熱しやけどした。
充電しながら携帯を使っていたら高熱になり、指をやけどし皮がむけた。
充電中のスマートフォンを枕の下に置いたまま寝てしまって、気がついたらスマートフォンが熱くなった。



スマートフォンによる、ケガ、やけどをした経験、
危なかった経験等の状況

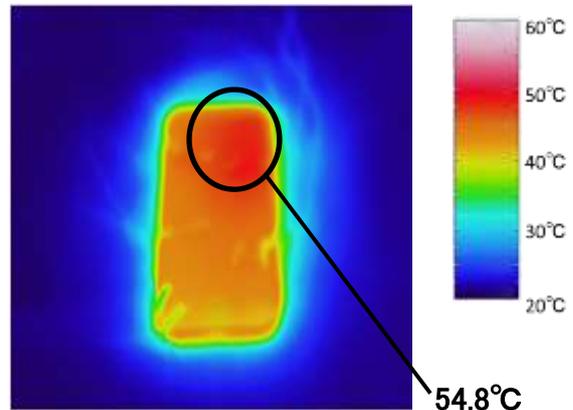
- **安全な使用に関する注意事項を
読んでいない人が7割以上** (報告書 P.11)

- **火災ややけどの原因となる使い方に危険と
思っていない場合も！** (報告書 P.13)

火災ややけどなどの原因となる「使用中や充電中に
布団などで覆ったり包む」、「汗による水濡れ」に対し、
7割以上は危険を感じていませんでした。

- **就寝中、毎回、ベッドや布団の上に
スマートフォンを置いて充電している人は約2割**
(報告書 P.14)

- **毛布に包んだスマートフォンは、
低温やけどが起こり得る温度まで上昇
最高温度は50℃を超えました** (報告書 P.27~63)



発熱したスマートフォンの赤外線画像

※44℃では3~4時間、46℃では30分~1時間、
50℃では2~3分で、「低温やけど」になるといわれています。
(出典：山田幸生「低温やけどについて」製品と安全第72号、
製品安全協会)

2 消費者へのアドバイス

- (1) **スマートフォンによる低温やけどに注意しましょう。**

スマートフォンを布団や毛布で覆ったり包んだ状態で、充電やアプリケーションを起動したままにしていると、スマートフォンは発熱します。特に、就寝時は、発熱したスマートフォンが身体に長時間触れたままになり、低温やけどを起こすおそれがあります。

寝る時は布団の上で充電しない、バックグラウンドで起動しているアプリケーションをオフにするなど、低温やけどにならないよう注意しましょう。

- (2) **「危険な使い方」を取扱説明書等でよく確認し、正しく使用しましょう。**

取扱説明書で危険な使い方とされている「使用中や充電中に布団などで覆う・包む」や「水や汗に濡らす」ことは、発煙・発火など火災の原因になります。

スマートフォンを使用するに当たっては、取扱説明書などで危険な使い方をよく確認し、危険な使い方はせず、正しく使いましょう。

※ 調査結果の概要、報告書(全文)は、別添資料をご覧ください。

詳しい内容は、こちらをご覧ください。



<http://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/anzen/test/>

【問合せ先】

消費生活部生活安全課
電話 03-5388-3082